

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所) 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム風車の家(ユニットA)	評価実施年月日	平成19年6月1日～30日
評価実施構成員氏名	山村 晃、山本育実、小山内 直美、坂田 美佳、東川 玲、前原 のぞみ、森 孝嗣、中道 恵子、数馬 愛子		
記録者氏名	数馬 愛子	記録年月日	平成19年7月1日～30日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>・理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>職員全員で作成した独自の介護理念がある。作成当時、「地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていく」という事を意識していなかったが、理念の内容としては、突き詰めるとその内容が盛り込まれていると考える。</p>	<p>・新入社員のオリエンテーション時に、理念が出来た経緯を説明し、常に振り返るものであるということについて話をする。</p> <p>・理念を作成してから、5年ほど経過したので、現在の職員で再度理念を見直し、必要であれば変更もしたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念は、玄関と事務所の見やすい場所に掲示し常に確認出来る様になっている。又、時々朝のミーティング時にくじ引きによる指名にて理念を復唱する機会を設け、理念を常に意識するよう心掛け、更にケアプランに取り入れるなどして、理念の共有と実践に向けて努力している。</p>	<p>・以前と比べて、理念を覚え常に復唱出来る様になっているが、理念の内容を一つ一つ理解して、さらに日々の実践に活かしたい。</p> <p>・理念とは、迷った時に常に振り返るものであるという意識がまだうすく、管理者がその呼びかけを積極的に行なっていく。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>	<p>理念は、玄関と事務所の見やすい場所に掲示しているが、家族や地域の人に知ってもらうための積極的な取り組みはしていない。</p>	<p>・現在作成中のパンフレットには理念を掲載予定で、完成後は、地域の回覧板に添付させて頂こうと計画している。</p> <p>・年4回発行している季刊新聞に、時々理念を掲載する事で家族への周知を高めていきたい。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>開設当初から、地域との関わりという面に関しては課題となっていただけであり、現在、職員は、地域住民という自覚を強く持っており、近くを歩いている人にはこちらから挨拶をしたり、行事の際にボランティアの導入をしたり、玄関前にパラソルや花を飾るなどして気軽に立ち寄ってもらえる様に努めている。</p>	<p>・現在作成中のパンフレットが完成した後は、地域の回覧板に添付させて頂こうと計画している。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>・運営推進会議の構成員として地域住民の方がグループホームの会議に参加して下さったのをきっかけに、行事の際に地域住民の方に手伝って頂いたり、グループホーム自体の存在を知ってもらう機会になったり、又、逆に地域の人々がどんな事を求めているか等を知る事が出来、少しずつ、地域の方との交流は増えている。</p> <p>・管理者は、グループホーム管理者連絡会議には積極的に参加し、情報交換の場所として活用すると共にグループホーム同士の見学会のきっかけとして役立っている。</p>	<p>・今後も積極的に行事の呼びかけをしたり、地域の行事のお手伝いを申し出たりするなどして、地域の方と共に活動する時間を増やしていきたいと考えている。</p> <p>・今年は、地域で主催するお祭りへの参加も予定している。</p>
6	<p>事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>・運営推進会議で、地域や家族が何を求めているかについて焦点を当てて話し合う機会を設け、それをもとに自分達が出来る事ややらなければならない事について話し合い、地域貢献に向けて少しずつ取り組み始めた。</p> <p>・昨年、介護家族や地域住民を対象とした、認知症介護研究・研修仙台センター主催のケアケア交流講座(介護者教育支援プログラムモデル事業のモデル事業)を実施し、認知症についての理解を深めてもらおうと法人全体で取り組んでいる。</p>	<p>・地域貢献に関しては取り組み始めたばかりなので、今後も更に自分たちに出来る事がないか、グループホームが何を求められているのかについて皆で話し合い、取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 管理者は、自己評価及び外部評価を実施するにあたって、その都度実施目的を伝えている。評価に関してもその都度伝え、指摘された一つ一つについて皆で話し合う機会を設けている。特に、今まで指摘事項として挙げられていた地域との関わり方については、どのようにして地域と関わっていくかをいつも職員同士で検討し工夫を重ねた結果、少しずつ地域との交流が出来始めているという成果も出た。 自己評価の記入を職員一人ひとりに行ってもらう事で、自己を振り返る機会となり、又、管理者は職員を知る一つの手立てとして役立て、介護の質の向上に努めている。 		<ul style="list-style-type: none"> 今後の運営推進会議で外部評価での指摘事項を議題として取り上げ、具体的な改善に向けて地域や家族と共に考える機会をつくりたい。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2ヶ月に1度実施している運営推進会議では、2ヶ月間にあった行事の報告、それからの行事予定とその月ごとの議題について主に話し合っている。 会議の内容は、グループホームの合同会議で発表し、今後のサービス向上や地域との交流の活性化の為に役立てている。 会議の議題が定まっておらず、充実した内容にならないこともある。 		<ul style="list-style-type: none"> 会議に、構成員以外の職員に参加してもらったり、他職種の人の参加を促すなどして、更に多角的な意見を取り入れていく事が出来るようにしていきたい。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>管理者は、定期的に実施される区、市のグループホーム管理者連絡会議には積極的に参加し、情報交換の場所として活用すると共にグループホーム同士の見学会のきっかけとして活用したりし、サービス向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護に関する制度について、管理者は大まかな事は知っているが、その必要性について話し合う機会を設けていないと共に、管理者、職員共に知識不足である。</p>		<ul style="list-style-type: none"> まずは、管理者が権利擁護に関する制度についての詳細と必要性を学び、必要な人にはそれらを活用出来る様に、そして職員に伝えられる様に努力していきたい。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者虐待防止関連法については、外部研修で学ぶ機会があり、その報告もしているが、それについての理解度は低いと感じる。 虐待そのものに関しては常に意識しており、虐待が起こらないよう、起こさせないよう業務に取り組んでいる。又、虐待と疑われそうな事(原因不明のあざや暴力行為の制止の仕方)については、小さな事でも家族へに報告、謝罪を行ない、その過程や理由を伝えている。 日常生活の中で、利用者からの依頼にすぐに応える事が出来ない時、その時の業務を一時中断しゆっくりと利用者に向き合うことをせずに「ちょっと待って、等」の言葉を使ってしまう事もある。 		<ul style="list-style-type: none"> 利用者からの依頼などがあつた際、その時優先すべき事は何なのかをよく検討し、必要以上に利用者を待たせる事のない様に気を配って行きたい。
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 申し込みの際に、出来る限り事前にグループホームに来ていただき、実際に建物、設備の現状や入居者の生活の雰囲気を見ていただく様にしている。 契約時には、重要事項説明書と契約書にてグループホームでの取り決め等を必ず説明しており、理解、納得を図っている。 契約解除の際も、何度か話し合いを重ねて納得していただいたうえで、契約解除の手続きをとっている。 		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情窓口を設置している。それについては、家族へ書面で知らせていると共に、玄関の見易い場所に掲示している。 ・普段の会話の中で出た意見等はもちろんの事、運営推進会議に参加してもらった際の利用者の意見等も重く受け止め、皆で検討し業務に反映するようにしている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者や家族がもっと自由に意見などを言えるように、玄関に意見ポストを設置を検討中である。 ・利用者から意見等を言ってもらうだけの受身ではなく、こちらから利用者が求めている事や困っている事を積極的に察知できる様に支援していきたい。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>毎月1回の手紙、年4回の季刊新聞、面会時に近況を報告している。又、その他にも特変時には個々に合わせその都度連絡している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者委員も含めた苦情窓口を設置している。それについては、家族へ書面で知らせていると共に、玄関の見易い場所に掲示している。 ・普段の会話の中で出た意見等はもちろんの事、運営推進会議に参加してもらった際の意見等も重く受け止め、皆で検討し業務に反映するようにしている。 ・面会の際にこちらから気軽に話しかけたり、家族参加の行事を作る等して、職員と家族の関係作りは常に意識しており、気軽に何でも言ってもらえる様に努力している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者や家族がもっと自由に意見などを言えるように、玄関に意見ポストを設置を検討中である。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者と職員は、グループホームでの会議において意見交換を行なうと共に、日々の業務内外においても職員の意見や提案を聞くよう努力している。又、それらの意見は、管理者会議において運営者へと伝わり、必要に応じて運営に反映されるようになっている。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・職員がもっと意見を出し易く、又、会議での意見交換も活性化される様に、管理者は意見の引き出し方の工夫が必要である。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>母体である宏友会における勤務体制の中で、必要に応じて、出来る限りの範囲で職員の確保や勤務時間の調整を行っている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・離職は、個人の問題の為やむを得ないながらも、少しでも長く勤める事が出来るような配慮はしている。異動は必要最小限であり、その際には、認知症に対する理解がある人を対象としている。 ・新しい職員が勤務する際は、顔を覚えてもらうまでは利用者との直接的な関わりを持たないようにし、自然に馴染みの関係を築けるように工夫している。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外部研修の機会は充分に与えられており、自己研磨に励んでいる。 法人内の研修については、今まででも実施していたが、今年度からは更に充実した内容の計画が組まれている。 	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 管理者は、定期的実施される区、市のグループホーム管理者連絡会議には積極的に参加する時間を与えられている。又、それらの会議を通して、グループホーム同士の見学会を実施し、互いにサービス向上に取り組んでいる。 外部からの実習を受け入れることにより、自分達のケアのあり方を振り返る機会となり、又、情報交換もする事が出来ている。 	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 運営者と職員が直接話をする機会は日常的にはないが、会った際には職務上の会話だけではなく、個々にあったプライベートな話題もざっばらんにする事で、職員の心身状態の把握に努めていると感じる。 法人内で、年に数回親睦会が実施されている。 希望の休みがなるべく取る事が出来るように配慮している。 	
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年1回の法人の全体会議において、勤続年数に応じた表彰がされている。 職員個々の努力や実績等は管理者が把握し、管理者会議や上司との会話を通じて運営者へと伝わっている。しかしながら、向上心を持って働ける環境ではないという意見も職員の中からあがっている。(給料面などにおいて) 	<p>まずは、管理者が更に個々の職員について把握する努力をし、各自が向上心を持って働ける様にするにはどのような配慮が必要なのか知っていく。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 申し込みの際に、出来る限り事前にグループホームに来ていただき、実際に建物、設備の現状や入居者の生活の雰囲気を見ていただく様にしている。 家族負担の軽減や本人にとってより良いと考えられる環境の提供などを考慮する事で、時には本人自身の希望に反する入居となる事もあると感じる。 	<p>入居相談時にすぐに入居を勧めるのではなく、本人が望む暮らしを続けられる様な支援の検討を積極的に行っていく。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 申し込みの際に、出来る限り事前にグループホームに来ていただき、実際に建物、設備の現状や入居者の生活の雰囲気を見ていただく様にしている。 事前の話し合いには時間を多くとるようにしており、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等を受け止める努力をしている。特に、在宅介護での辛さや大変さに関してはよく耳を傾けるようにしており、家族の苦勞を深く受け止められるように配慮している。 	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>事前の話し合いの段階で、本人にとってグループホームより更により良い住み替えの場がありそうな時には、適切だと考える他サービスを勧める事もあるが、家族負担の軽減や本人にとってより良いと考えられる環境の提供などを考慮する事で、時には本人自身の希望に反する入居となる事もあると感じる。</p>		<p>入居相談時にすぐに入居を勧めるのではなく、本人が望む暮らしを続けられる様な支援の検討を、他職種の人とも連携しながら積極的に行っていく。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居時には、出来るだけそれまで使用していた家具や食器を持参して頂き、馴染みの物があるという安心感を持って頂くようにしているし、その目的についても家族に話している。</p> <p>家族や本人が望むのであれば、入居後しばらくは家族と一緒にグループホームに寝泊りしてもらったり、在宅とグループホーム間を行き来したりするなどして、個々の状況や希望にあった方法で馴染める様に工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>理念の一つとなっている事もあり、職員は利用者を家族として捉え、一緒に過ごす中で想いを共有しあえるよう取り組んでいる。又、人生の先輩として入居者から学ぶ事も多くある事を知っており、学ぶという姿勢を常に持つように心掛けている。</p>		
28	<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>毎月1回の手紙、年4回の季刊新聞、面会時に近況を報告し、又、その他にも特変時には個々に合わせその都度こまめに連絡して行きながら、利用者の事について家族と一緒に考える姿勢をとっている。</p> <p>年間行事の中に家族にも参加を募る行事を何回か作り、喜怒哀楽を共にしながら一緒に支えあう関係を築けるようにしている。</p> <p>運営推進会議では積極的に家族からの発言を求め、ケアについて共に考えていく姿勢をとっている。</p>		<p>家族の面会時や行事参加時には積極的に交流を図り、更に深い関係を構築していきたい。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>面会時、個々の状況や希望に合わせて、居室でゆっくり過ごしてもらったり、居間などで職員付添いで過ごしたりして、利用者も家族も混乱しないように配慮している。</p> <p>年間行事の中に家族参加の行事を何回か作り、喜怒哀楽を共にしながら過ごす時間を大切にしている。</p> <p>必要に応じて、認知症という病気について家族とともに話し、今後のケアについて一緒に考える時間を作り、利用者の現状が悪化した際の家族の落胆を少しでも軽減出来る様に配慮している。</p>		<p>今後も、本人と家族の関係をもっと理解出来る様に、家族との連絡は密にし、家族からの意見が積極的に出る様な関係作りを構築していきたい。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>電話や手紙による連絡、面会や身内との外出・外泊は自由である。</p> <p>「なじみの人や場所との関係が途切れない」という事に対する意識が薄く、積極的な支援についての話題が職員間で出てこない。</p>		<p>まずは、個々の馴染みの関係についてよく知る努力をし、その関係を継続する大切さを職員間で話し合いたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者一人ひとりの性格や入居者同士の関係を把握しながら、気の合う人同士と一緒に過ごせる様に、座る席を自由にしたり、お互いの居室の行き来を見守っている。又、関係に疲れを感じている様な時には、何気なく距離をおいてもらうように触発したりしている。		・以前より、認知症の症状が個々によって様々でその差も大きくなってきている現状では、個々がいかに自分の居場所を見つけ、少しでも生き活きとした生活が出来るかが、今後の大きな課題となっている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	家族が必要としている情報の提供や個人的な面会やお見舞いなどにより、必要に応じて継続的な関わりを維持するようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・入居者や家族との日常の関わりの中において、常に個々の思いや希望や意向を意識しながら接するようになっており、出来るだけそれらの把握に努めている。 ・認知症の症状により、思い等を言葉で表せない利用者についても、本人の立場に立って、少しでも気持ちや痛みなどを汲み取ることが出来るように、偏った見方をしないように多角的な視点で捉える様に気をつけている。		・今後も、本人の思いや意向を意識しながら接して、それらの把握に努め、更にその中でも全て本人の希望に添うのではなく、本人がその人らしく生活する為に支援する事(添ったほうが良い希望と添わないほうが良い希望)の大切さについて職員間で話し合いたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に情報収集しているとともに、日常生活の関わりの中からも更に把握しようと努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	・センター方式の一部を使用したケース記録用紙によって、個々の一日の過ごし方の他に感情の変化や想いが把握しやすいように工夫している。 ・毎週月曜日に全員、必要がある人に関しては毎日バイタルサインのチェックを実施し、健康状態を把握している。 ・個々の有する力には特に着目しており、常に「出来る事・出来ない事」を念頭に置きながら関わりを持ったり、職員間での情報交換をしたりしている。		・「出来ない事」について、その理由が職員の偏見や職員側の都合になっていないか見直す機会をつくり、又「出来る事」については、今知っている事他に出来る事が無いか探り、改めて個々の「出来る事・出来ない事」の把握に努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプラン作成時の話し合いの場には本人や家族は同席する機会はないが、日常生活の関わりの中で得る意見は反映している。家族には、原案が出来た時点で確認を頂き、その際に意見等が出た場合はそれに添うように計画を変更したりして対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に合わせて、事前に評価、アセスメントを行ない見直しを行っている。又、身体機能の変化や入院時には期間に関係なくその都度見直しを行っている。見直しの際は、新規で作成する時と同様に、日常生活の関わりの中で得る意見は反映するとともに、家族には、原案が出来た時点家族に原案が出来た時点で確認を頂き、その際に意見等が出た場合はそれに添うように計画を変更したりして対応している。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	<ul style="list-style-type: none"> 今年から、センター方式の一部を用いた日誌を使用した事で、個々の思いが分かり易くなり、又、職員が記録を見直す際にも重点を逃がす事無く見直す事が出来る様になった為、情報の共有、介護計画への活用に役立っている。 日誌に、介護計画実施記録組を組み込むことにより、普段の様子と合わせて介護計画の見直しが出来ている。 		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	法人の意向により、短期入所や通所サービスは実施していない為、風車の家で行なえる物的な事柄には限度があると感じるが、支援という面においては、利用者の生活の場という他に、家族の相談を受ける場であったり、日常生活の中で行なう利用者のリハビリの場となったり、新しい入居者の新たな住み替えの場となる等、現状の中で可能な多機能性を活かす様に努力はしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の意向という点では反映されていない部分もあると感じるが、必要に応じて、行事の際に学生の実習生や地域のボランティアや他職種の職員に協力してもらっている。 運営推進会議に地域住民等に参加してもらう事で、利用する地域資源の拡大につながっている。 警察、消防、文化・教育機関等との協力体制は薄い。 		<ul style="list-style-type: none"> 警察、消防、文化・教育機関等と今後どのような場面で関わりが出てくるかを知り、必要に応じて協力体制を整えて行きたい。 消防署の協力を得ての避難訓練を予定している。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	入居時に関しては、家族負担の軽減や本人にとってより良いと考えられる環境の提供などを考慮する事で、時には本人自身の希望に反する入居となる事もあると感じる。グループホームに入居している際に利用できる福祉サービスは限られていると思うが、入居後は医療面や民間の針治療など、本人が希望する他のサービスを利用出来るための支援は行っている。		<ul style="list-style-type: none"> 入居相談時にすぐに入居を勧めるのではなく、本人が望む暮らしを続けられる様な支援の検討を、他職種の人も連携しながら積極的に行っていく。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの方にも参加してもらっているが、協働、と言うにはまだ至っていないと感じる。		<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センター自体の活動状況がまだ把握しきれていない為、まずは、活動状況を知るべくして今後の関わりを密にしていきたい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>隣接する同法人の施設に勤務する看護師には相談したり、助言や指導をもらう事があるも、利用者についての詳細や現状は知ることが出来ない為、普段の健康管理と医療活用は個々のかかりつけ医に依頼している。往診は内科医、歯科医が主である。</p>		<p>・定期的な口腔内検診の実施を行って行きたい。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>・個々のかかりつけ医は、専門医ではないが認知症に理解がある。 ・認知症に詳しい専門医等との関係が無く、正しい認知症の診断や治療を受けられる環境にはない。</p>		<p>・専門医等認知症に詳しい医師との関係を構築していきたい。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>グループホーム内で看護職員は確保していない。隣接する同法人の施設に勤務する看護師には相談したり、助言や指導をもらう事があるも、利用者についての詳細や現状は知ることが出来ない為、普段の健康管理と医療活用は個々のかかりつけ医に依頼している。往診は内科医、歯科医が主である。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>・入院時には、介護添書を病院側に渡し、利用者がグループホーム内と同様の支援が少しでも受けられるようにしている。又、出来るだけお見舞いに行くようにしている。 ・入院後、担当のソーシャルワーカーや看護師と密に連絡を取り合い、利用者の様子や情報交換を行うようにし、早期退院する為に行える事を支援するよう努めている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>法人の考えにより、重度化、終末期の対応は行っていない為、身体の著しい機能低下などが見られた場合は、早めに家族と相談する場を何度か持ち、その後の対応方法を検討している。家族には、入居時の段階でその事について説明し了承してもらっている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>法人の考えにより、重度化、終末期の対応は行っていない為、身体の著しい機能低下などが見られた場合は、早めに家族と相談する場を何度か持ち、その後の対応方法を検討している。「出来ること・出来ないこと」については、重度や終末期の利用者ではなくても重要な事のため、常々意識しながら関わりを持っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや、書面や口頭での情報交換を行い、住み替えの適切な時期の検討を行ない、ダメージを防ぐ事に努めている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の介助を行う際は、周囲に気づかれないように小声で声掛けし、さりげない介助を心掛けている。 ・利用者の記録類は施設外に一切持ち出し禁止とし、施設内でも、個人情報を処分する際は、全てシュレッダーでの処分を徹底している。 ・入居の事について職員間で話をする時は、イニシャルで話すようにし、記録物もイニシャルでの表示にしている。 ・入社時、個人情報についての誓約書を記入してもらっている。 		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>個々の特徴と認知症の症状の特性を理解しながら、分かる力に合わせた声掛けは行なっているが、それらを十分に活かして、利用者本人が決める事への触発はまだまだ足りないと感じる。</p>		<p>・利用者本人が決める大切さと、利用者本人が決める生活そのものが利用者本来の姿となる事を職員間でよく話し合い認識していきたい。</p>
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の人数不足などにより、出来てないと感じる日もあるが、今ある現状の中で精一杯努力はしている。 ・個々の希望に合わせて、個別に買い物や娯楽施設へ行ったりしている。 ・しかしながら、業務を優先し勝ちだと感じる日は多く、利用者主体の生活ではないこともある。 		<p>・利用者主体の生活とはどういうことかについて職員間で再度話し合う機会を設け、その大切さについての認識を深めたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理美容は、本人が望むお店に行く事は可能であるが、殆どの利用者は、グループホームに来ている訪問理美容を利用している。その際も、種類や利用の有無は本人の希望を取り入れている。 ・更衣の際利用者と一緒に衣類を選ぶ機会を、少ないがつつている。 ・出かける際には、化粧を触発し、お洒落をする機会を設けている。また、希望がある人には、その都度マニキュアもつけている。 		<p>・更衣の際利用者と一緒に衣類を選ぶ機会をつくれる職員はまだ少ないため、利用者本人が決める大切さと、利用者本人が決める生活そのものが利用者本来の姿となる事を職員間でよく話し合い認識していきたい。</p>
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>個々の力を活かしながら、テーブル拭きや食材切りや後片づけ等を行って貰っているが、まだまだその機会は少なく、又、特定の人への触発しかしていないのが現状である。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・いつも手伝ってくれる利用者の他に、出来る利用者がいないか、再度個々の能力や希望の見極める。 ・利用者主体の生活とはどういうことかについて職員間で再度話し合う機会を設け、その大切さについての認識を深めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・現在はお酒やタバコを日常的にのむ利用者はいないが、希望があれば、身体に影響が無い範囲で楽しめるように支援している。 ・飲み物に関しては、個々の力に合った方法で選べる機会をつくり好きな物を飲んでもらっている。 ・おやつは、入居者が喜ぶものを選んではあるが、入居者に直接希望を聞くことは殆どない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・週に1,2回からでも、おやつ時に利用者の希望を聞き、それを取り入れたおやつを提供していきたい。 ・利用者が好むものを提供する事で、職員が満足してしまっていないか、飲みたいものや食べたいものは、その日その日によっても、時間によっても違うという事を再認識する。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、排泄チェック表にて排泄状況をチェックしている。 ・オムツ類は、必要最低限の使用で対応するように心掛け、出来るだけ個々の力を活用した排泄が出来る様に努力している。 ・個々の排泄パターンを理解するように努力をし、その人にあったタイミングや方法でトイレ誘導、失禁介助を行なっている。 		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一日に入浴出来る人数や時間には制限があるため、入浴チェック表を見てある程度予定は立てているが、希望があった際にはそれに添うようにしているし、本人の入浴したいと思うタイミングは大切にしている。		<ul style="list-style-type: none"> ・入浴している時間を大切に、楽しい雰囲気での入浴を楽しめるように更に工夫を重ねていきたい。 ・入居者が積極的に、入浴したいという希望が出せるような雰囲気作りを心掛けたい。 ・夜間の入浴の希望がどれだけあるのかを探るとともに、実施の検討をしていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の心身状況や生活習慣を考慮してうえで、あえて就寝や起床を促すことはあるが、あくまでも、そのタイミングや時間は本人の意向に沿っており、自由である。 ・入眠中のトイレ誘導のタイミングを職員間で統一する時は、本人の生活習慣や希望等を考慮し十分に検討を重ねた上で決め、又、決めたとしてもそれに拘らず臨機応変に対応するようにして、利用者が少しでも気持ちよく休めるように配慮している。 		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の力や生活歴を活かして、家事、遊び、外出などを、個々に合わせて声掛けや触発をしている。 ・外出も、グループホームとしての行事とは別に、個々の趣味や楽しみに合わせて、個別に買い物などの機会を積極的につくっている。 ・自分で楽しみを見つけられる人や希望を言える人は、日常生活を楽しむ事ができていると感じるが、そうではない利用者が楽しむための支援が不足している。 		<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の症状が進んできた利用者も楽しいと思える時間が更に増えるように、個々の力を再度見極めながら支援の幅を広げていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の力や希望に合わせて、お金の所持を行なってもらったり、それに伴う支援を家族と協力して行なっている。 ・買い物に行ったり、理美容を使用する際などに、出来る人には自分でお金を払ってもらっている。 		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の人数などにより、一人ひとりの希望に添うことが出来ない日もあるが、今の現状において、個々の気分や希望に合わせての散歩や外での食事や日向ぼっこ等、出来ることはしている。 ・利用者全員を対象とした行事とは別に、個々の趣味や楽しみに合わせて、個別に買い物やボウリングなどの機会を積極的につくっている。 ・家族との外出や外泊は自由である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な外出が出来るように、又、利用者の「出掛けたい」という気持ちをなくさないように更に支援できる事は無いが職員間で話し合っていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回程度、行事を企画して、皆でいつもと違った場所へ出かけている。(サクランボやぶどう狩り、お花見、大型スーパーなど) ・利用者全員を対象とした行事とは別に、個々の趣味や楽しみに合わせて、個別に買い物やボウリングなどの機会を積極的につくっている。 ・家族との外出や外泊は自由である。 		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所の電話はいつでも使用できるようにしており、その際に必要に応じて、電話番号を押ししたり、椅子を用意したりなどの支援を行なっている。 ・携帯電話の所持も自由で、現に携帯電話を所持し、日常的に利用している利用者がある。 ・希望に応じて、手紙の投函を職員が代行している。 ・職員の触発にて、家族宛ての暑中見舞いや年賀状を利用者と一緒で作成している。 		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> ・面会時間は自由である。又、面会時には個々の状況や希望に合わせて、居室でゆっくり過ごしてもらったり、居間などで職員付添いで過ごしたりして、利用者も家族も心地よく過ごしてもらえるように配慮している。 ・家族の面会の大切さを理解し、家族宛ての手紙を書く際や面会時には、足を運んでもらえるように一言添えるようにしている。 		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全体が身体拘束に対する意識は持っており、出来るだけ施錠をしないように工夫したり、過剰な声がけをしないようにしたり、必要以上の介護用品(ベッド柵など)を使用しないようにしたりと身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 ・外部研修において、身体拘束を考える機会をつくっていると、日常的に、職員間でも身体拘束について話し合っている。 ・「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」については理解不足である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、管理者が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について理解していく。 ・「ちょっと待ってね」等の言葉による拘束を少しでもなくする為にはどうしたらよいか、職員間で話し合っていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯の為玄関に施錠する時間帯はあるが(17時45分～8時45分)、日中は施錠していない。 ・玄関に鈴を付ける事で、入居者の出入りが分かり、さりげない支援が出来るように配慮している。 ・居室は、鍵をかけない事での利用者の弊害もあるため、利用者の弊害や希望に合わせて、施錠するという行為を本人の意思で行なってもらっている。その際は、職員が入室できるような工夫をしている。 		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 職員は、利用者がどこで何をしているか把握出来る様に、常に五感を働かせるようにして素早い対応を心掛けている。 夜間は、定期巡回の他にも、個々の状態に合わせ必要な巡回を行っている。 利用者の行動パターンや思いや力などを理解した上で、過剰な介助をしないようにしながら、利用者の行動を見守り、安全に暮らせるように配慮している。 		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個々の物に関しては、個々の状況や希望に合わせて、一時預かったり、安全な状態での使用を勧めたり、使用する際の見守りを行ったりするなどの支援をしている。 台所で使用している刃物は、使用后や使用中にその場を離れる時には必ずすぐに片付けるようにし、利用者の目の届きづらい所に保管している。洗剤類は、利用者の手の届きづらい所に保管はしているものの、それを使用できる利用者には届く位置にしている。 危険＝預かる、という風潮が、職員間にはまだある。 		<ul style="list-style-type: none"> リスクとは、誰の為のリスクなのか、そのリスクが本当に利用者にとってのリスクなのかについて改めて職員間で話し合い、物を預からないで、利用者が安全に生活する為の支援の方法を更に深く考えて行きたい。
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個々の心身状態を認識し、事前に考えられる事故を予測し、防止する為の支援について日常的に職員間で話し合っている。又、事故が起こってしまった場合は、ヒヤリハットも含め、報告書を書き、更にその報告書について会議やミーティングで話し合う場を設けることで、再発防止について充分に検討するようにしている。 実際に事故に遭遇した際の対応には、事故遭遇の経験数や知識の有無などにより、職員間でバラツキがあると感じる。 		<ul style="list-style-type: none"> 実際の場面を想定した、現実に近い状態での訓練を検討して行きたい。 職員個々の、事故に対する意識(特に事故後の再発防止について)をさらに高めていく必要がある。再発防止策には、具体的にどんなものがあるか一人ひとりが積極的に考えられるような環境が必要である。
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 簡単なマニュアルがあり、職員一人ひとりが持参している他、常に目に付く所に貼っているが、定期的な訓練は行っていない。 外部研修や区のグループホーム主催の研修などにより、不定期での勉強の場は設けている。 事故遭遇時等の対応には、事故遭遇の経験数や知識の有無等により、職員間でバラツキがあると感じる。 		<ul style="list-style-type: none"> 実際の場面を想定した、現実に近い状態での訓練を、まずは一度行ない、今後定期的に行なえるように検討して行きたい。 職員個々の、事故に対する意識をさらに高めていく必要があり、どんな時も全ての職員が冷静に、その場にあった対応が出来るように、職員間での情報交換や勉強の場を積極的に設けていきたい。
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> マニュアルは、同法人の特別養護老人ホームのものをそのまま引用させてもらっているかたちであり、ホームとはそぐわない部分も多くなっている。 グループホーム単体での避難訓練はしばらく行っていない為、災害時の対応方法は身につけていない。 		<ul style="list-style-type: none"> 災害時、地域の人々にどの様な形で、どの様な協力を得ていくかをまずはグループホーム内で検討して行きたい。 グループホーム独自のマニュアルの作成を検討中である。 早急な段階での訓練の実施を検討している。
72	<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>リスク自体については、職員間での意識の違いがあると感じるが、利用者個々の心身状況から予測されるリスクには、常々職員間で話し合っており、家族にも密に連絡し現状を知ってもらった上で、お互いに協力して、出来るだけ本人の希望や想いを重視したリスク回避策を考え取り組んでいる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> リスクが、職員側のものなのか、利用者側のものなのか、本当に対応策が必要なリスクなのか、というリスクそのものに対する職員間の意識の違いを出来るだけなくしていく為に、外部研修を積極的に活用する他、職員間で十分に話し合う機会を設けたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 週一回定期的に利用者全員のバイタルサインのチェックを行うとともに、個々の状況に合わせてその都度チェックを行っている。 特変事項は必ず記録として残すとともに、口頭での引継ぎを実施している。 利用者は、認知症という病気により、痛みや苦痛をそのまま表す事が出来ないという事を、職員は充分に理解しており、日々の言動や表情からも体調の変化などが無いかを読み取れるようにしている。 		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 利用者個々が服薬している薬については、目的と副作用と用法を一覧にし、薬の変更があればその都度書きかえて、理解する様に努めているが知識不足のところもある。 服薬動作については、個々の力や希望に合わせて、手渡す方法や時間を工夫している。 		<ul style="list-style-type: none"> 職員一人ひとりが薬に対する意識を高めていくとともに、服薬への理解や重要性について職員間で振り返る機会を作っていくたい。
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>個々の心身状況を把握するとともに、便秘の原因をまずは探るようにし、食生活の改善や運動の促し、必要に応じて薬の使用を行っているものの、特に運動の促しに関しては、積極的に行っていないと感じる事が多い。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 会議などの職員間での話し合いでは、便秘予防の為の飲食物の工夫や運動の触発について常々提案として出ている為、あとは、職員一人ひとりがその具体案への意識を常に持つ努力をしていく。
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎食後とはいかないが、利用者個々の力やその時の状況に合わせて、歯ブラシを手渡す、洗浄の声掛けを行うなどの支援を行なっている。 必要や希望に応じて、歯科医の往診を自由に受ける機会がある。 		<ul style="list-style-type: none"> 口腔内洗浄に対する拒否がある利用者への支援方法の更なる検討をしていきたい。 歯科医師による定期検査を検討していきたい。
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 食事チェックは毎食時全員、水分チェックは必要な利用者に対しその都度行ない、個々の摂取状況を把握し、必要に応じて、個々の状態や力に合わせた促しを行っている。 食べ物や飲み物の提供の時間は、職員が支援の目安にする為の大体の取り決めがあり、時には、利用者の希望や習慣よりもその取り決めに重要視してしまう事がある。 		<ul style="list-style-type: none"> 利用者が、食べたい、飲みたい、と自ら積極的に思える事が、栄養や水分摂取の自然な形だという事を職員間で改めて話し合っていきたい。
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対応マニュアルと衛生管理マニュアルがあり、それに基づいて実行している。 年1回、利用者職員はインフルエンザ予防接種を受けている。 		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> 衛生管理マニュアルがあり、それに基づいて日常的に実行している。 布巾類は毎食後に、まな板は夕食後(時期によっては毎食後)に、その他の物は必要に応じてその都度に漂白を行なっている。 賞味期限や食材の状態の確認を徹底している。 まな板や包丁は、食材によって分けて使用するようになっている。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> 玄関前にバラソルや花を、玄関ドアに季節に合わせた飾り物を飾るなどして、親しみが出るように心掛け、人々が気軽に立ち寄ってもらえる様に努めている。 建物の見易い場所に大きな看板があり、建物自体も黄色なので、利用者にとっても、地域住民や見学者等にとっても分かりやすいようになっている。 		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> トイレの電気と換気扇が自動の為、必要に応じて、トイレの小窓や換気扇部分を塞いだり、音が大きいドアの開閉に気をつけたりと、必要以上の光や音が出ない様に配慮している。 玄関、廊下、居間、食堂には、季節感が感じられるような花を飾ったり、利用者が作ったものや行事の写真を貼る等して、利用者の感性が豊かになる様な配慮をしているが、実行が遅れて、季節にそぐわなかったり、だいが前の写真が飾られたままになっていることも多い。 		<ul style="list-style-type: none"> 管理者が、更に居心地良い共用空間を意識し、職員一人ひとりがそれについてもっと積極的に取り組めるような環境づくりを行っていく。 懐かしい道具や生活観溢れる家具をもう少し増やしていきたい。
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	<ul style="list-style-type: none"> 食堂と居間は壁で仕切られているので、それを活用して、食事やくつろぎの場を個々にあった形をとっている。 廊下の端や居間に、周囲から目に付きづらい角度で椅子を配置することで、他入居者の目を気にせず過ごせるようになっている 		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	<p>基本的に、家具の配置や選出は家族と本人に任せてしまうが、入居時などには、馴染みの物を使う重要性について必ずお話し、環境が大きく変わらないように、又、本人にとって居心地良い場所となるように配慮している。</p>		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 窓の開閉での換気や加湿器と濡れタオルでの加湿を、その都度必要に応じてこまめに実行している。 空気清浄機とオゾン発生器を設置している。 冬季は、常に暖房が入っており、ほぼ一定の温度が保たれている為、外気温との差が激しい。 		<ul style="list-style-type: none"> 特に冬季の暖房の入れ過ぎには気をつけて、利用者が「肌寒い日だから一枚着よう。」など自然に思えるように、もっと利用者の力を信じ、感性に働きかける配慮をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>・建物全体はバリアフリーとなっており、ホームエレベーターを設置している。</p> <p>・内部には手すりが設置してあり、各居室においても、個々の身体状況に応じて手すりを設置したり、安定した家具を配置したりして安全面の工夫をしている。</p> <p>・しかし、全体がバリアフリーとなっている事で、生活しながらの自然なりハビリ(段差をまたぐなど)をする機会が少なく、又、水道や電気が自動の為、利用者が迷うことが多い為、自立するという観点からは適していない部分もあると考える。</p>		<p>・今の建物の現状で出来ることは行なっているが、今後の利用者の心身状況の変化に合わせた対応をその都度検討を重ねていきたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>・個々の出来る事と出来ない事に常に着目して、それにあった活動の触発をしたり、さりげない支援を心掛けている。</p> <p>・利用者がいつもなじみの空間で生活出来、混乱しないように、個々がよく使用する場所の物の配置などが変化ないように心掛けている。</p>		<p>・自立ということを更に意識し、利用者がもっと「自発的に」出来ることをする環境づくりと触発が今後の大きな課題である。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関前にパラソルとベンチを設置し花も飾る事で、ホッと出来る空間になるように心掛け、利用者の心身状況や希望に合わせて、外で食事をしたり、玄関掃除をしたり、お茶を飲んだりしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない</p>

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

[特に力を入れている点・アピールしたい点]

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点
等を自由記載)

- ・開設当初から地域との関わりという点において課題となっていたが、昨年より運営推進会議を実施したことで、行事の際に地域住民に参加して頂いたり、逆に地域がどんな事を求めているかを知ったりと、地域とのつながりを開ききっかけが出来たと感じている。今後は、地域のお祭りに参加したり、地域行事の手伝いに行ったりすることを検討しており、更に地域との関わりを密にしていきたいと考えている。
- ・利用者の生活の質を上げるためにも、家族との良好な関係と協働が必要であり、今後もグループホームに気軽に足を運んでもらえ、そして気軽に意見等を言ってもらえるように配慮していきたい。
- ・利用者の入れ替えなどにより、利用者の心身状況の差が大きくなってきている。そんな中で、一人ひとりが居心地良い空間を見つけ、いきいきとした生活をする為の環境づくりが現在の大きな課題となっている。一人ひとりが一瞬でも楽しみ、笑顔が見られるように、そして、グループホームが適切な住み替えの場だったと思ってもらえるように、今後も努力していきたい。